

江戸川中学でベルカントの指導！

●江戸川中学校3年生の「虹」を指導！

今日19日の午後2時45分からは、春日部市立江戸川中学校体育館で3年生30人を対象として「音楽の都ウィーンからの贈り物・出張指導」が行われました。全校生徒77人の江戸川中学校では、今週末の22日(土曜日)に学校で合唱祭があり、そこには地域の方々も聴きに來られるそうです。そんな舞台上で各学年(3学年で全3クラス)がそれぞれ合唱を披露するそうで、歌好きの3年生が選んだ曲は、森山直太郎さん作詞・作曲の『虹』でした。今回、学校からのリクエストは、その合唱について45分で指導する予定だったのですが…。

* *

◆最初の指導は腹式呼吸の徹底から

舞台前に3年生が勢揃いし、1、2年生が見学する中、これまで練習してきた『虹』が披露されました。



ここで富田さんから「腹式呼吸法」の個人レッスンが始まりました。息を吸うときはお腹を緩め、吐くときは横隔膜を目一杯使うのですが、反対に吸うときにお腹が引っ込み、吐くときにお腹が出る生徒もいます。富田さんは否定しません。「それも大切だけれども、今は吸うときにお腹を緩めて、吐くときはお腹を凹ます呼吸を身につけましょう」と優しく指導していきます。



全員が出来たところで、各小節での歌い方をチェックしてきます。「う～」の発生にも「おう～」の様に口をつぼめるような発声を求めます。また、言葉の意味を聞く場面も…。

「♪僕らの出会いを 誰かが分かれと呼んだ
僕等の別れを 誰かが出会いと呼んだ
…

風になった日々の空白を空々しい歌に乗せて
…

僕らの喜びを 誰かが悲しみと呼んだ
僕らの悲しみを 誰かが喜びと呼んだ…♪

という歌詞があるけれども皆さんはわかりますか？」との問いに、生徒の一人が「卒業式の歌だと思いません」と答えます。すると、

「そういう感覚かなあ…。みんなが不安な時代の中にいて、出会いや別れ、喜びや悲しみがあるけれども、希望を失わずに前向きに進むと、その先には色鮮やかな虹が架かっているという歌だよ。だから、最後は希望のある歌い方をしなくてはダメです。」

と。そうした歌詞の意味を伝えたあとに、小節毎に「ピアノシモ」「ピアノ」「クレシェンド」と「ソプラノ」「アルト」とパート毎に細かく歌い方をチェックしていきます。

言葉で分からない部分は、富田さんがお手本を示して歌われます。特に3年生になって変声期が終わり、声が出せるようになった男子には、女子とのバランスを考えて「ピアノシモ」を要求する場面が多くありました。指揮者にも全体を盛り上げる姿や音を押さえるパフォーマンスを要求するのですが…。

予定の45分の倍90分の練習になっていました。最後は、当初と全く変わったハー

モニーが生まれていました。最後は涙する生徒も、きっとこの涙は一生の宝物になると信じます。熱血指導の富田様と江戸川中生徒たちに**感謝と感動！**



〔パート毎に細かい指導が〕

